

# 内部障害理学療法学

[講義・演習] 第3学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》この科目はオンデマンド教材での事前学修を基に授業を行う。  
毎回の授業においてオンデマンド教材の内容に基づく確認テストを受講すること。

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 阿部隆宏 多田菊代

## 【概要】

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝障害系疾患など内部障害系疾患に関する理学療法について学修する。

## 【学修目標】

### 一般目標

内部障害系疾患に対する理学療法評価やリスクマネジメントを理解する。

### 行動目標

1. 内部障害系疾患に対する理学療法評価を説明することができる。
2. 内部障害系疾患に対する画像所見の特徴を説明することができる。
3. 内部障害系疾患に対する生理検査の特徴を説明することができる。
4. 内部障害系疾患に対する理学療法評価を実践できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内部障害理学療法学概論	・内部障害系疾患の全体像および理学療法の目的	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
2 ) 3	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・バイタルサインの評価 ・フィジカルアセスメント(視診)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
4 ) 5	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・フィジカルアセスメント(触診・聴診)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
6 ) 7	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・フィジカルアセスメント(筋力検査・感覚検査)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
8 ) 9	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・生理検査(呼吸機能検査・血液ガス)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
10 ) 11	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・生理検査(心電図)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
12 ) 13	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・生理検査(心電図)	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
14 ) 15	内部障害系疾患に対する理学療法評価	・画像所見のアセスメント	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代

## 【授業実施形態】

### 面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験（筆記試験）70% 授業内確認テスト30%  
定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

解良武士、椿淳裕 編 「Crosslink 理学療法学テキスト内部障害理学療法学」 MEDICAL VIEW 2019年  
松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー ～臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮～」 文光堂 2018年

【参考書】

本間生夫 監修 「呼吸リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版」 メジカルビュー社 2014年  
弦間昭彦 編 「最新ガイドラインに基づく 呼吸器疾患 診療指針 2021-'22」 総合医学社 2020年  
日本呼吸器学会COPDガイドライン第5版作成委員会 編 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン2018[第5版]」 メディカルレビュー社 2018年  
佐藤幸人 著 「心不全の基礎知識100第2版」 文光堂 2019年  
斉藤秀之 編 「極める循環器理学療法」 文光堂 2020年  
上月正博 編 「重複障害のリハビリテーション実践マニュアル 27症例から学ぶ多臓器障害者のリハビリテーション」 医歯薬出版 2020年  
安達仁 編 「CPX・運動療法ハンドブック 改訂4版 心臓リハビリテーションのリアルワールド」 中外医学社 2019年  
後藤葉一 編 「国循 心臓リハビリテーション実践マニュアル」 メディカ出版 2017年  
居村茂幸 編 「ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版～カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ」 羊土社 2015年  
田屋雅信 編 「リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方」 羊土社 2018年  
山下武志 監修 「The 心臓リハビリテーション 症例で紐解く超実践ガイド」 金芳堂 2020年  
美津島隆 監修 「リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング モニター心電図から生体情報を読み解く」 メジカルビュー社 2019年

【備考】

演習には動きやすい服装を準備すること。  
授業において以下の目的にmanabaを使用する  
1. 学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示  
2. 学生相互の意見交換やグループ学習の実践  
3. 学生の理解度を把握する技術の活用

【学修の準備】

1. この授業は、2年生までの解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学修の準備としては毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと。  
2. この授業は、授業前にオンデマンド教材を用いた事前学修を必要とする。また、授業中にオンデマンド教材での学修内容に関する確認テストを行う。学修の準備としては毎回の授業に合わせて十分に学修をしてから講義に臨むこと（80分）。  
3. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書、オンデマンド教材を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、阿部隆宏（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域での理学療法士としての実務経験を通して得た知識・技術等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している